

# “がんばる農業”を応援します！

明日を担うチカラ

稲美町の

## 若き農業者たち



### 技術を受け継ぎ、おいしい野菜を次世代へ

福田 修司さん (24歳・六軒屋)

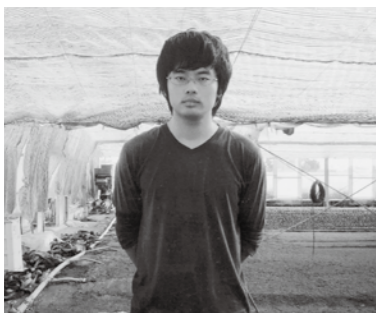
中学3年生の時に“将来は父親と一緒に農業をしたい”と決心しました。大学を卒業後、就農し約80種類の野菜や花を少量多品目で栽培しています。また、春には野菜の苗も作っています。全量を地元のJAや直売所、学校給食に出荷しています。

就農2年目で、まだまだ一人前には程遠いですが、これからしっかり技術やノウハウを受け継ぎ、世代が変わっても変わらぬ美味しい野菜を作っていきます。一人でも多くの方に美味しいと言ってもらうために、日々努力していきます。



### 農業の素晴らしさや楽しさを伝えたい

梅本 聖也さん (22歳・野寺)



水稻 150a、キャベツ 70~80a、施設で促成トマト 18a、水菜・小松菜 22a を栽培しています。

大学は農業とは全く無縁でしたが、そんな中でも家で農業をするという事は常に念頭にありました。そして“家の仕事を手伝いたい、農業の素晴らしさを知りたい”という思いで、就農することにしました。2世代3人で経営し、トマトに関しては高糖度で味も良質で、個人のお客さんへの直接販売もしています。クチコミで人気も上昇し、市場では高値で取り引きされ、手応えを感じています。トマトの味を引き継ぎ、農業の素晴らしさや楽しさを理解し、大勢の人達にそれらを伝えていきたいです。

### 祖父から農業を引き継ぎ事業を拡大中

大西 雄大さん (25歳・上場)

祖父から経営を引き継ぎ、主にトマト、水稻を栽培し、さらに昨年からミニトマト、ブロッコリー、白菜を加え、品目・面積を拡大しています。

栽培品目の中で、いちばん特徴のあるのはミニトマトです。通常の赤色だけでなく、黄色とオレンジ色の3色で彩りを良くしています。見た目楽しんでもらいながら、かつ味も甘く、おいしいと食べてもらえます。小さなお子さんでもたくさん食べてくれると好評を得ています。



### 農業のプロフェッショナルを支援

町では、農業の安定的な経営を支援するため、「認定農業者制度」を設け、資金融資、農地の利用集積、確定申告の際の特例などの支援を行っています。現在、町内の認定農業者は33人です。

また、農業の活性化を図るために、機械・施設など設備投資の支援、新規就農者への支援、営農組合の育成などに努めています。



### 6次産業化をめざして

稲美ブランドなどの付加価値の高い農産物を栽培し、生産（第1次産業）、加工（第2次産業）、流通・販売（第3次産業）の一体化を図る6次産業化（※）により、農家の所得が向上していくことを支援していきます。



いなみ野メロン

※6次産業化とは…農産物を生産するだけでなく、それを加工し販売するところまで視野に入れた事業展開をすることにより、農業者が多くの利益に関わる仕組みを作ろうというもの

いなみ朝市

### 地産地消を進めています



ふあ〜みんSHOP

朝市や農産物直売所において、地元で採れた農産物の販売を促進しています。また学校給食では、稲美ブランドの「万葉の香」や地元の農産物を積極的に活用し、地産地消を推進しています。

「万葉の香」



小学校給食